



標高約 900c、小さいながらも、広い関東平野のどこからでも臨むことのできる山「筑波山」。西の富士、東の筑波」と称されるほど関東を代表する山であり、特にここ茨城に住む私たちにとっては日本一の山「富士山」よりも親しみ深く、四季折々にその姿を変化させる美しい山ではないでしょうか？それは現在に限ったことではないようです。

筑波山」は朝は藍、昼は緑、夕は紫と一日に幾度も表情を変えることから「紫峰」と呼ばれ、その優美な姿は多くの歌人を魅了し、古い歌集に数多く歌われています。特に日本最古の歌集『万葉集』には「筑波山」を詠んだ歌が長歌・短歌合わせて 25 首あります。4,516 首の万葉集全体からすればわずかなものですが、富士山を詠んだ歌がわずか 9 首であることを考えれば山を詠んだ

歌としては特別多いことがわかります。そこには筑波山の優美な姿だけではなく、古代の人々の間でのその重要な位置付けもあるといわれています。

筑波山神社をはじめ、男体山には伊弉諾尊いざなぎのみこと、女体山には伊弉冉尊いざなみのみことを奉る本殿があり、古くから神の住む山として多くの人々より愛され、信仰されていたようです。現在でも縁結び、夫婦和合の神、生産のシンボルとして広い信仰を集めているということです。

神域として長い間保護されてきた「筑波山」には学術的に珍しい植物や昆虫、野鳥が数多く生息しており、関東平野に残る貴重な自然の宝庫としてその優美な姿を私たちに受け継いでいるのです。

(問い合わせ先：防災基盤科学技術研究部門 大森みほ)



編集・発行 /  独立行政法人 防災科学技術研究所

〒 305-0006 茨城県つくば市天王台 3-1 1 0298-51-1611(代)

企画課直通 1 0298-52-0814 ☎ 0298-51-1622

E-mail plansec@bosaigo.jp インターネット <http://www.bosaigo.jp>

発行日 / 2002.1.1